

令和5年度学校自己評価システムシート (県立戸田翔陽高等学校)

S07

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 基礎的な知識・技能の習得を基本に、主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するための資質・能力を身につけた「人財」の育成を目指す学校 |
|--------|---|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、生徒の学ぶ意欲を喚起して、学習の基盤となる「言語能力」を育成する。 2 かけがえのない存在、必要とされる存在としての自尊感情及び徳性を涵養させる。 3 探究する力を育て、多岐にわたる進路希望の実現を系統的・組織的指導で支援する。 4 学校外資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域で生かす。 |
|------|---|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 8名 |
| | 生徒 | 4名 |
| | 事務局(教職員) | 6名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | 学 校 関 係 者 評 価 | | |
|-------------|--|---|--|---|---|-----|--|
| 年 度 目 標 | | | 年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在) | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | 【現状】 コロナ禍で活動の制限があったものの、ICTの活用により生徒の学習理解を把握できるようになった。 【課題】 ・一人一台端末の活用。 ・生徒の言語能力の育成。 ・成績不振者の増加。 | ピアラーニングや表現活動など、生徒の言語能力を育成する活動を充実させ、生徒の学習意欲を向上させる。 | ①ICT 機器を更に活用し、基礎的な知識の定着を図る。 ②ICT 機器の活用とアクティブラーニングの授業の実施により、生徒の表現活動の機会を増やし、言語能力を育成するため、より多くの言語活動を実践できたか。 ③多文化共生推進員、学習サポーター等による積極的な学習支援を実施する。 | ①特に1年次の一人一台端末を利用した効果的な学習活動ができたか。 ①生徒の授業評価において、理解度が向上したか。 ②言語能力の育成のため、より多くの言語活動を実践できたか。 ③成績不振者数を減らせたか。 | ①1年次の必修の授業などで一人一台端末を利用することができたが、端末が導入されていない他学年との選択の授業などで対応に課題が見られた。 ②Google for Education や学習アプリなどを利用した授業を実施することで、同時編集機能を利用して表現活動を取り入れた授業を実施することができた。 ③成績不振者は増加してしまっていたが、授業満足度は4.4(5段階)と去年度より高水準であった。 | B | 授業満足度は高水準であるものの、成績不振者が昨年に引き続き増加した。原因を把握し対策を講じる必要がある。また、次年度から更に一人一台タブレットの導入が進むため、効果的な学習活動が求められる。 |
| 2 | 【現状】 外国籍の生徒や対人関係が苦手な生徒など、多様な背景を持ち、自己肯定感が低い生徒がいる。また、基本的な生活習慣が身につけていない生徒がいる。 【課題】 ・多様な背景を持つ生徒の基本的な生活習慣の確立。 ・外国籍の生徒への支援の充実や多文化共生意識の向上。 ・生徒の自己肯定感の向上。 ・成年年齢引き下げに伴う教育の組織的、継続的な実施。 | 規律ある生活を確立するとともに、生徒の自己肯定感を高める。 自尊心和相手を尊重する心を醸成する。 | ①全教職員で連携して、基本的な生活習慣を身に付ける取組を継続するとともに、校則の変更など、生徒の意見を幅広く取り入れる場面を作る。 ②成年年齢の引き下げに伴う教育を計画的に実施するため、年間計画に位置付ける。 ①特別支援教育委員会の再編や多文化共生推進事業の更なる充実により、各生徒に適切な支援を行う。 ②コーディネータを中心に戸田かけはし高等特別支援学校との連携を積極的に進める。 | ①日常的な指導により、生徒の変化を把握し、組織的な対応ができたか。 ①生徒の自己肯定感を高め、中途退学者数を減らせたか。 ②成年年齢の引き下げに関する授業や講演会等を計画どおりに実施できたか。 | ①生徒の意見を取り入れて校則を一部変更するとともに、文化祭で初めて中夜祭を実施することができた。職員間で積極的に情報共有し、生徒個々の指導に生かした。 ②成年年齢引き下げに関する講演会を3学期末に計画するとともに、ビジネスマナー講座なども実施することができた。 | A | 今後も生徒の意見を取り入れた学校運営を行うなど、生徒の自己肯定感の向上を目指し、様々な背景や課題を抱える生徒の支援を充実させ、中途退学者数を減少させる。 生徒個々の特性や発達に応じた支援について、さらに研究し実践を進めていく。 |
| | | ①「産業社会と人間」の系統立てた実施により、生徒の進路意識を高める。 ②特に進学希望者には外部模試の受検やスタディサプリの活用を促し、定期考査などの効果的な振り返りをもとに、普段の学習の質を高める。 ③ICT を活用し、データ化した求人票を生徒が家庭でも自由に求められるようにする。 | ①困っている生徒を早期に把握し、校内外の連携を生かして生徒を支援することができたか。 ②特別支援教育の視点を生かして、多様な生徒の理解を深め、生徒の支援を行うことができたか。 | ①外国籍生徒等を対象とした学校設定科目「日本語」を令和6年度教育課程に導入することができた。特別支援教育委員会を再編し、今後の支援に生かすための情報共有をすることができた。 ②戸田かけはし高等特別支援学校のコーディネーターとも適宜連絡を取れるようになり、連携の足掛かりを作ることができた。 | A | | |
| 3 | 【現状】 進路希望・実績ともに、大学短大、専門学校、就職と多様化している。 【課題】 ・時代の変化への対応。 ・進学指導の充実。 ・多様化する進路希望。 ・年次、教科と連携した進路指導部主導の進路指導。 | 生徒一人ひとりの将来を見据えた多様な進路に対応した指導を行い、生徒、保護者の満足度を高める。 | ①「産業社会と人間」の系統立てた実施により、生徒の進路意識を高める。 ②特に進学希望者には外部模試の受検やスタディサプリの活用を促し、定期考査などの効果的な振り返りをもとに、普段の学習の質を高める。 ③ICT を活用し、データ化した求人票を生徒が家庭でも自由に求められるようにする。 | ①生徒の進路希望・適性検査をもとに「進路の手引き」を効果的に活用した履修指導ができたか。 ②基礎力診断テストや外部模試実施後のフィードバックにより、生徒の学習意欲・進路意識向上につながられたか。 ③進路指導の満足度は高かったか。 | ①三者面談などを通して、進路希望に沿った情報提供や助言が効果的にできた。 ②外部模試やスタディサプリの利用者が増えた。基礎学力診断テストのフィードバックを行い、生徒の学習意欲・進路意識向上につながった。 ③指定校を新たに19校増やし、大学講座や海外進学サポートなどの連携ができた。就職希望者35名のうち、2社以上受験した生徒が10名。決定するまで情報提供や助言を繰り返した。 | A | 進学希望者に対して、指定校以外の受験方法の助言や3年間を見据えた履修指導や進路ガイダンスを行う。 求人票の電子データ、外部模試、民間の学習ツールの活用率を更に高める。 |
| 4 | 【現状】 コロナ禍で制限があったものの、少しずつ地域連携を生かした活動を実施できるようになってきた。 【課題】 ・本校の特色や魅力を伝える活動の一層の充実。 ・積極的かつ持続的な地域へのPR活動及び生徒募集の推進。 | 地域との連携により地域に根付いた学校づくりに取り組む。 学校の特色を積極的にPRし、志願者を増加させる。 | ①各関係機関との連携を生かして、生徒の活動を充実させ、その成果をPRする。 ②学校通信の発行と近隣自治会への回覧を継続するとともに、地域との交流を充実させる。 ①進学フェアへの参加や積極的なホームページの更新を行う。 ②学校説明会の実施方法を工夫し、教育活動のPRを充実させる。 | ①県及び市関係行事などに生徒が関わることができたか。 ②学校通信を発行し、教育活動の理解を深められたか。 ②文化祭などを地域に案内することができたか。 | ①コロナ以降初めて、お祭りでのボランティア活動やインターンシップを実施することができた。 ②学校通信を16号発行し、近隣自治会に回覧した。学校通信や生徒会生徒によるポスティングにより文化祭を地域に案内することができた。 | A | 地域との連携を更に進め、その様子を学校HPや学校通信で地域に発信する。 学校説明会の参加者が大幅に増えたため、その運営の仕方について改善していく必要がある。 |
| | | ①ホームページのアクセス数を増やせたか ②学校説明会参加者の高い満足度は得られたか ②志願者数を増やせたか。 | ①12月末時点でHPを118回更新(昨年度81回)した。 ②学校説明動画をHPに載せ、いつでも学校説明を聞けるようにした。12月15日現在、I部1.92倍、II部1.06倍、III部0.49倍。去年より志願者数が増えた。 | A | | | |

| | |
|--|---|
| 実施日 | 令和6年2月6日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | タブレットの使用頻度を高め、「文房具」としての活用をお願いしたい。小・中学校での取り組みを継続し、先生の教材提示だけでなく、生徒が利用する場面を増やす必要がある。 成績不振者については、現状よりも少しでも伸ばしてあげる地道な支援を引き続きお願いしたい。 自己肯定感を高めるために、教育活動の様々な機会を利用できる。例えば、校則の変更などの際に生徒との対話を設けるなど、生徒の意見を取り入れるプロセスも大切なのではないかと。 また外国にルーツのある生徒には、授業での支援を充実させる必要があると同時に、互いの多様性を尊重させるために、異文化理解の観点での協働の機会を作るなどの工夫をしていただきたい。 すでにクレジットカードを作る生徒も出てきているため、成年年齢やビジネスマナーに関わる教育活動をもっと増やしてほしい。 シラバスについて、どんな授業内容なのか生徒が分かりやすい表現で書いて欲しい。 目的意識なく大学を希望する生徒が増えているため、大学に行く目的などを考えられると良い。 職種や業種についての説明やガイダンスなどの進路行事を考えていただきたい。 |
| 地域との関わりが少ないため、もっと交流の場を増やす必要がある。文化祭の案内の工夫や、地域の避難所としての防災訓練を実施するなど、まずは地域の人に学校に来てもらう必要がある。 学校説明会では施設見学や説明を生徒が行うなどすると、中学生や保護者にはより分かりやすく魅力的になる。 | |

